

大脇商店

レアメタル再資源化研究会で講演 ネオジム磁石からの回収技術紹介

中部地区大手鉄スク
ラップヤード業者の大
脇商店(本社・岐阜県
各務原市、代表・大脇
富士子氏)は6日夕、
名古屋工業研究所で
開催されたレアメタル
の再資源化に関する技

術発表や情報交換を行
う「第9回レアメタル
資源再生技術研究会」
(主催・レアメタル再
生資源研究会、会長・
藤田豊久東京大学大
院教授)で「企業連携
にネオジム磁石スクラ
ップからのレアアース
回収事業化の提案」を
テーマに講演を行っ
た。

講演に立った同社の
岩田和也常務は、廃ネ
オジム磁石は採算性の
あるリサイクル技術が
確立されていないこと
や、多くは海外流出し



講演する岩田常務

ているケースが多いと
回収が難しい状況であ
ることを紹介。また、
国からの支援を受け回
収プラントによりネオ
ジム、ディスプロシウ
ムを含むシユウ酸の回
収に成功しているが、
再資源化コストが高い
など解決すべき課題が
多いと、レアアース回
収事業化に向けたアイ
デアを提案した。「低
コストで再資源化でき
なければ、資源流出に
歯止めが掛からず、我
が国の都市鉱山は消滅
してしまうのではない
のか」とまとめた。

同社は愛知、岐阜県
下に4拠点、5事業所
を有し、工場発生をメ
ーンに月1万8千ト製
鋼原料を集荷。大同特
殊鋼など主力に納入す
るヤード業者。09年よ
りパソコンなど廃電子
機器の増加を背景に、
ネオジム磁石からレア
メタル再資源化技術の
開発に取り組んでい
る。

るヤード業者。09年よ
りパソコンなど廃電子
機器の増加を背景に、
ネオジム磁石からレア
メタル再資源化技術の
開発に取り組んでい
る。